実施学科課程表（2017～2023入学生）

経済学科　　（令和6年度）

学科目	授業科目	新授業科目名	単位	開講年	実施時期	学科基盤科目	副専門科目 経営システム	副専門科目 地域システム	副専門科目 社会イノベーション	レベル	受講可能年次	担当者	教員免許該当科目	グローバル科目	ページ	備考
基礎経済論	政治経済学Ⅰ	政治経済学Ⅰ	2	6	前	●				中級	2年以上	海	公民		1	
	政治経済学Ⅱ	政治経済学Ⅱ	2	6	後					中級	2年以上	海	公民		2	
	初級マクロ経済学	マクロ経済学	2	6	前	●	○	○		基礎	1年以上	高見	公民		3	
	中級ミクロ経済学	上級ミクロ経済学	4	6	前		○		○	中級	2年以上	村山			4	
	中級マクロ経済学	上級マクロ経済学	4	6	後					中級	2年以上	宇野			5	
	応用ミクロ・マクロ経済学セミナー	応用経済分析セミナー	2	7	前					応用	3年以上	宇野				
	現代資本主義論	現代資本主義論	2	7*	前・集中					応用	3年以上	非（磯谷）	公民			
	計量経済学	計量経済学	2	6	前					応用	3年以上	下田			6	
	経済数学	経済数学	2	6	前		○		○	基礎	1年以上	中本			7	
	経済学史	経済学史	2	7*	前					中級	2年以上	田村	公民			
	統計学	統計学	2	6	前					基礎	1年以上	中本	公民		8	
	経済統計学	経済統計学	2	6*	後					中級	2年以上	中本	公民		9	
比較経済論	経済学国際セミナー	SDGsセミナー	2	6	後					中級	2年以上	柴田		○	10	
	海外キャリア・ディベロップメント・ワークショップ	※なし	2	不開講						応用	3年以上	小笠原				
	国際貿易論	国際貿易論	2	6	前		○			中級	2年以上	柴田	公民		11	
	世界経済論	世界経済論	2	6	後	○				中級	2年以上	柴田	公民		12	
	開発経済論	開発ミクロ経済学	2	6	前	○				中級	2年以上	木村			13	
	アジア経済発展論	開発経済学	2	6	後		○	○	○	応用	3年以上	木村	公民		14	
	EUの政治経済	EUの政治経済	2	6	前					応用	3年以上	デイ	公民	○	15	
	グローバル化と政治経済	グローバルスタディ入門	2	6	後					応用	3年以上	デイ	公民	○	16	
	現代国際関係論	現代国際関係論	2	6	前・集中	○		○		中級	2年以上	非（高山）	公民		17	
	現代国際関係史	現代国際関係史	2	6	後・集中			○	○	中級	2年以上	非（高山）	公民		18	
	経済地理学Ⅰ	経済地理学Ⅰ	2	6	前			○	○	中級	2年以上	美谷			19	
	経済地理学Ⅱ	経済地理学Ⅱ	2	6	後		○	○	○	中級	2年以上	美谷			20	
	労働経済論Ⅰ	労働経済論	2	7*	後					中級	2年以上	石井	公民			労働経済論Ⅰの履修者は労働経済論は履修不可
	労働経済論Ⅱ	※なし	2	6	後・集中					中級	2年以上	石井	公民		21	労働経済論は履修可
	労使関係論	労使関係論	2	6	後			○	○	応用	3年以上	石井	公民		22	
	西洋経済史	西洋経済史	2	6	前	○				中級	2年以上	市原	公民		23	
	日本経済史Ⅰ	日本経済史Ⅰ	2	6	前・集中				○	中級	2年以上	非（坂江）	公民		24	
	日本経済史Ⅱ	日本経済史Ⅱ	2	6	前・集中				○	中級	2年以上	非（堀川）	公民		25	
	経済史	経済史	2	7	前					基礎	1年以上	市原				
	日本経済論	※なし	2	7*	前・集中					応用	3年以上	非（根岸）				
	環境の経済学	環境の経済学	2	6	前・集中					応用	3年以上	非（外川）	公民		26	
経済政策論	経済政策論Ⅰ	経済政策論Ⅰ	2	6	前					中級	2年以上	高見	公民		27	
	経済政策論Ⅱ	経済政策論Ⅱ	2	6	後					中級	2年以上	高見	公民		28	
	産業組織論	産業組織論	2	7*	前・集中					応用	3年以上	非（柳川）				
	公共経済学	公共経済学	2	7	後					応用	3年以上	高見	公民			旧カリ応用なので2年間不開講は不可
	社会政策	社会政策論Ⅰ	2	6	前			○	○	基礎	1年以上	石井	公民		29	社会政策の履修者は社会政策論Ⅰの履修は不可
	社会政策論Ⅱ	※新規開設	2	7	後					中級	2年以上	石井・三好				
	セミナー「働くということと労働組合」	コレクティブ創造セミナー	2	6*	後					応用	3年以上	石井・小山			30	8年度以降はコレクティブ創造セミナーとして開設
	社会保障論	社会保障論	2	7*	後					中級	2年以上	三好	公民			
	日本の社会保障	※なし	2	7*	前・集中					中級	2年以上	三好	公民			
	財政学Ⅰ	財政学Ⅰ	2	6	前					中級	2年以上	林	公民		31	
	財政学Ⅱ	財政学Ⅱ	2	7	後					中級	2年以上	林	公民			
	金融論Ⅰ	金融論Ⅰ	2	7*	前		○			中級	2年以上	小笠原	公民			
	金融論Ⅱ	金融論Ⅱ	2	7	後					応用	3年以上	小笠原	公民			
	国際金融論Ⅰ	国際金融論Ⅰ	2	6*	前		○			中級	2年以上	小笠原			32	
	国際金融論Ⅱ	国際金融論Ⅱ	2	6*	後		○			応用	3年以上	小笠原			33	
	証券論	証券論	2	6	前					中級	2年以上	非（金）	公民		34	
	証券市場論	※なし	2	6	後					応用	3年以上	非（金）	公民		35	

※経済学科の学科基盤科目４単位については，「基礎経済論」学科目（●）から２単位および
「比較経済論」学科目（○）から２単位を含めなければならない。
※上記「副専門科目」に○がついている学科の学生にとって、左の科目が副専門科目となる。
経済学科の学生が経営システム学科の副専門科目を履修したい場合は、経営システム学科の実施学科課程表を参照し、
経済学科の下に○がついている科目を履修すること。
※開講年に「＊」のある科目は隔年開講の予定である。
※グローバル科目欄に「○」のある科目は，国際フロンティア教育プログラム・グローバル科目であるため，
　全て英語による授業を行う。詳細は，教養教育科目ガイドブックを参照すること。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K132E301	政治経済学Ⅰ(Political Economy Ⅰ)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経	前期	木2	氏名　海　　大　汎 E-mail　dbhae@oita-u.ac.jp　内線　7681

授業の概要

・テーマ：資本主義的生産様式の成立と展開
・概要：本講義は、『資本論』第１部の内容を学修するものとして、資本主義経済の形成過程と基本構造について理解を深めることを目的とする。資本主義経済の理論を学ぶことによって、受講者には、経済現象の法則性を理解し、現代社会の諸問題を把握できる力量の涵養を期待する。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	『資本論』第１部の核心的な内容を理解できる。	○		○							
目標2	商品・貨幣・資本の内的原理を体系的に把握できる。	○		○							
目標3	資本主義的生産様式の成立原理からその運動法則を説明できる。	○		○							
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	ガイダンス
2	商品とは何か－商品の２つの要因
3	商品の価値規定
4	価値形態と交換過程－商品から貨幣へ
5	貨幣の基本的機能－商品流通の契機
6	貨幣の派生的機能－貨幣としての貨幣
7	貨幣の資本への転化－価値増殖の謎
8	剰余価値の発生メカニズム
9	絶対的剰余価値の生産
10	特別剰余価値の生産
11	相対的剰余価値の生産
12	生産様式と労働者統合
13	賃金と雇用
14	単純再生産と拡大再生産
15	資本蓄積と相対的過剰人口

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	・小テストやQ&A、講読、演習課題を実施することで、授業内容について理解を深めてもらいます。	
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向			
D:知識の活用・創造	○		

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	［15h］次回の予定箇所を読み、分からないことや疑問点をまとめる。
	事後学修	［20h］講義の内容を参考にして自分の思考や問題意識を深める。

教科書

・森田成也(著)『[新編]マルクス経済学再入門－商品・貨幣から独占資本まで〈上巻〉』（2019年）社会評論社。

参考書

・参考資料を適宜配布します。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
小テスト	40%	○	○	○							
学期末レポート	50%	○	○	○							
授業への参加度	10%	○	○	○							

注意事項

・無断欠席〔※連絡・説明・証明なしの欠席〕は減点対象となります。

備考

リンク

URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K142E401	政治経済学Ⅱ(Political Economy II)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経	後期	木2	氏名　海　　大　汎 E-mail　dbhae@oita-u.ac.jp　内線　7681

授業の概要

・テーマ：資本主義経済の構造と動態
・概要：本講義は、『資本論』第２部・第３部の内容を学修するものとして、個別資本の運動原理を把握するとともに、その総体として導き出される資本主義経済の諸法則について理解を深めることを目的とする。資本主義経済の理論を学ぶことによって、受講者には、経済現象の法則性を理解し、現代社会の諸問題を把握できる力量の涵養を期待する。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	『資本論』第２部・第３部の核心的な内容を理解できる。	○		○							
目標2	資本主義経済の運動法則を体系的に把握できる。	○		○							
目標3	資本主義経済の内的傾向と現代社会の諸問題との関係を説明できる。	○		○							
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	ガイダンス
2	個別資本の循環
3	運輸と通信
4	流通費と実現利潤
5	個別資本の回転
6	社会的総資本の再生産Ⅰ－単純再生産
7	社会的総資本の再生産Ⅱ－蓄積と拡大再生産
8	資本利潤と利潤率
9	標準利潤率と生産価格
10	利潤率の傾向的低下と長期波動
11	商業資本と商業利潤
12	利子生み資本と信用
13	株式会社と法人資本
14	土地所有と地代取得資本
15	独占資本

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	・小テストやQ&A、講読、演習課題を実施することで、授業内容について理解を深めてもらいます。	
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向			
D:知識の活用・創造	○		

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	［15h］次回の予定箇所を読み、分からないことや疑問点をまとめる。
	事後学修	［20h］講義の内容を参考にして自分の思考や問題意識を深める。

教科書

・森田成也(著)『[新編]マルクス経済学再入門－商品・貨幣から独占資本まで〈下巻〉』（2019年）社会評論社。

参考書

・参考資料を適宜配布します。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
中間テスト	40%	○	○	○							
学期末レポート	50%	○	○	○							
授業への参加度	10%	○	○	○							

注意事項

・無断欠席〔※連絡・説明・証明なしの欠席〕は減点対象となります。

備考

・本講義を受講するにあたって、前もって「政治経済学Ⅰ」の受講・学習を勧めます。

リンク

URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K131E301	初級マクロ経済学(Introduction to Macroeconomics)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2	経済学部	前期	木3	氏名　高見博之 E-mail　htakami@oita-u.ac.jp　内線　7674

授業の概要	はじめて経済学を学ぶ学生が，経済学，特にマクロ経済学の基礎的な知識や考え方を理解し，専門分野を学習するときに経済学を適用できる基礎力を修得することを目標とします。また、現実の経済問題について論理的に考える力をつけることをねらいとします。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	マクロ経済学の基本的な概念を説明できる。	○									
目標2	乗数効果を説明できる。	○									
目標3	財・サービス市場における需要と供給を説明できる。	○									
目標4	資産（貨幣）市場における需要と供給を説明できる。	○									
目標5	経済モデルに基づき，財政金融政策の効果について説明できる。	○									
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容	
1	マクロ経済学とは
2	マクロ経済学のとらえ方(1) 貿易・為替レートとマクロ経済の波及効果
3	マクロ経済学のとらえ方(2) GDPとは
4	マクロ経済における需要と供給
5	財・サービス市場：有効需要と乗数メカニズム
6	資産（貨幣）市場（1）　貨幣供給と信用乗数
7	資産（貨幣）市場（2）　貨幣需要と利子率
8	まとめ（1）
9	財政政策の基本構造(1)　乗数
10	財政政策の基本構造(2)　公債の負担の問題
11	財政・金融政策とマクロ経済：政策目標・政策手段と貿易問題
12	財政・金融政策のメカニズム(1)　金融政策と有効需要
13	財政・金融政策のメカニズム(2)　財政政策とクラウディング・アウト効果
14	財政・金融政策のメカニズム(3)　IS-LM分析と財政・金融政策
15	まとめ（2）

アクティブラーニング				その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	学生の理解を確認するため、毎回，小レポートを設定します。小レポートには，質問欄を設定し，質問があった場合には次回の講義の最初に回答をします。		各種外部試験（経済学検定試験や公務員試験など）を元にした演習問題を解いてもらうことがあります。
B:意見の表現・交換				
C:応用志向				
D:知識の活用・創造				

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	教科書の内容を確認すること（7h）。 マクロ経済学の考え方を意識しながら日本経済新聞を読むこと（7h）。
事後学修	講義を基にした教科書，小テストの振り返り（15h）。

教科書	「マクロ経済学　第2版」伊藤元重著（日本評論社）
参考書	『マクロ経済学・入門 第5版』福田慎一 照山博司著（有斐閣アルマ），ISBN 9784641222243. 『マンキュー マクロ経済学　入門篇　第4版』N.G.マンキュー著（東洋経済新報社），ISBN 9784535556218. など。

成績評価の方法及び評価割合 評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
期末試験	70%	○	○	○	○	○					
小レポート	30%	○	○	○	○	○					

注意事項	詳細な注意事項等は、第１回目の講義で説明します。
備考	連絡等にMoodleを活用します。定期的に確認してください。
リンク	
URL	

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K142E402	中級ミクロ経済学(Intermediate Microeconomics)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	4	2,3,4	経済学部	前期	月3,火3	氏名　村山悠 E-mail　murayamayu@oita-u.ac.jp　内線　7716

授業の概要	この講義の目的は，経済学の最も基本的な枠組みがまとめられたミクロ経済学について，中級レベルの内容を理解することである。主に，家計の消費行動，企業の生産の決定，市場と均衡，独占・寡占などについて学ぶ。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	経済学検定試験EREレベルの問題を解けるようになる。	○									
目標2											
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	ミクロ経済学とは何か？ミクロ経済学で使う数学について
2	需要と供給(1)　需要曲線
3	需要と供給(2)　供給曲線
4	消費の理論(1)　効用関数と予算制約式
5	消費の理論(2)　効用最大化問題
6	消費の理論(3)　所得効果と代替効果
7	消費理論の応用(1)　労働供給
8	消費理論の応用(2)　消費と貯蓄
9	消費理論の応用(3)　不確実性
10	消費理論の応用(4)　顕示選好の理論
11	企業と費用(1)　等生産量曲線と等費用曲線
12	企業と費用(2)　費用曲線
13	企業と費用(3)　短期と長期の費用曲線
14	生産の決定(1)　利潤最大化問題
15	生産の決定(2)　供給曲線
16	市場と均衡(1)　完全競争
17	市場と均衡(2)　市場価格の調整メカニズム
18	市場と均衡(3)　市場取引の利益
19	市場と均衡(4)　政策介入のコスト
20	市場と均衡(5)　資源配分の効率性
21	市場と均衡(6)　厚生経済学の基本定理
22	独占(1)　独占企業の行動
23	独占(2)　独占と市場
24	独占(3)　自然独占と規制
25	独占(4)　参入をめぐる競争
26	寡占(1)　寡占とは
27	寡占(2)　クールノー・モデル
28	寡占(3)　カルテル
29	寡占(4)　シュタッケルベルグ・モデル
30	まとめ

アクティブラーニング				その他の工夫	
	A:知識の定着・確認	○	レポート課題・小テストによる自己評価		Moodleの活用
	B:意見の表現・交換				
	C:応用志向				
	D:知識の活用・創造				

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	講義資料を読むなどの予習（30h）
	事後学修	レポート課題・小テスト・講義内容などの復習（30h）

教科書	教科書は指定しない。講義資料を使う。
参考書	講義中に紹介する。

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	小テスト・レポート	20%	○									
	中間試験	40%	○									
	期末試験	40%	○									

注意事項	数学の知識が必要です。
備考	
リンク	
	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K142E403	中級マクロ経済学(Intermediate Macroeconomics)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	4	2,3,4	経	後	火3,木4	氏名　宇野真人 E-mail　muno@oita-u.ac.jp　内線　7676

授業の概要	経済活動の中で重要なキーワードがある。それは所得・利子率・為替レートだ。それらは相互に影響し合っている。その関係を理解してもらうことがねらいである。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	公務員試験や経済学検定試験など各種試験レベルの問題を解く力をつけることが目標です。	○									
目標2											
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容	
1	ガイダンス
2	ＧＤＰの成り立ち
3	総需要と総供給（1）
4	乗数分析（1）-政府支出乗数-投資乗数-貿易乗数
5	乗数分析（2）-均衡財政乗数-租税乗数
6	投資と利子率
7	ＩＳ曲線の成り立ちと意味
8	実質利子率と名目利子率
9	貨幣の需要と供給と利子率の決まり方
10	貨幣需要
11	貨幣供給
12	金融政策と利子率
13	LM曲線の成り立ちと意味
14	ＩＳ－LM分析と財政政策が所得と利子率に与える効果
15	ＩＳ－LM分析と金融政策が所得と利子率に与える効果
16	中間
17	国際収支について
18	変動為替相場制と固定為替相場制
19	マンデルフレミングモデル
20	マンデルフレミングモデルと財政金融政策の効果
21	総需要総供給分析
22	総需要曲線の導出
23	総供給曲線の導出
24	政策と物価変動
25	消費関数の理論（1）
26	消費関数の理論（2）
27	消費関数の理論（3）
28	産業連関分析（1）基礎
29	産業連関分析（2）基礎
30	産業連関分析（3）活用

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	講義終わりに１０分程度の小テストを実施し理解度を高める工夫を行っている。	
B:意見の表現・交換			
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	本講義で配布する教科書以外にもマクロ経済学の本に触れておくと理解が早まります。講義前に2h
	事後学修	小テストや教科書にある練習問題の習った個所について繰り返し解く。講義後に2h

教科書	開始時に配布　※諸事情で配布については初回に間に合わないことがあります。
参考書	ガイダンス時に提示

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	小テスト	30%	○									
	中間テスト	30%	○									
	期末テスト	40%	○									
	小テストは合計10回の予定 中間テストは持ち込み可で理解度を確認します。											

注意事項	４単位の講義で、週二回の講義があります。 単位取得希望者は中間テストと期末試験は受験必須です。
備考	※オンラインで実施する場合は試験の実施形態などが異なりますので、初回講義の際に詳細を説明します。
リンク	
	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K143E403	計量経済学(Econometrics)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3,4	経	前期	木1	氏名　下田憲雄 E-mail　nshimod@oita-u.ac.jp　内線　7683

授業の概要	計量経済学の大きな役割は、実際に観察される経済現象・事象からのフィードバックを通じて経済理論や経済の現状を検証し、理論の適合性や政策の実施やその効果を判断することです。したがって、講義では、経済事象の数値データを収集し、それらを解析することからスタートし、経済理論の仮説検証を行う方法について勉強します。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	分析の対象となるデータの様々な特徴や性質、データ間の関係を調べることができる。		○									
目標2	線形回帰モデルの特徴を説明できる。		○									
目標3	エクセル等を用いて、線型回帰モデルを使って簡単なマクロ経済モデルの検証ができる。		○									
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												

授業の内容

1	統計学から・・・記述統計，確率統計，標本分布と仮説検定
2	計量経済学の位置付け
3	時系列データについて
4	統計処理としてのエクセルの利用方法
5	最小２乗法の基礎１
6	最小２乗法の基礎２，確認課題１
7	単回帰分析の基礎１
8	単回帰分析の基礎２
9	単回帰分析の応用（経済分析の事例），確認課題２
10	多重回帰分析の基礎１
11	多重回帰分析の基礎２
12	多重回帰分析の基礎３，確認課題３
13	多重回帰分析の応用１
14	多重回帰分析の応用２，確認課題４
15	まとめ

アクティブラーニング			その他の工夫	
A:知識の定着・確認	○	学生の理解を確認するため、定期的に課題の提出を求める		パソコンとエクセルを利用
B:意見の表現・交換				
C:応用志向	○			
D:知識の活用・創造				

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	教科書，配付資料や参考文献等を用いを予習する(30h)
	事後学修	講義内容をノート，教科書，配付資料等を用いて復習する(15h)
教科書		『入門　計量経済学』第2版　山本拓・竹内明香著
参考書		『計量経済学』：山本拓 『計量経済学』：森棟公夫

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
定期試験	60%										
課題・確認テスト等の提出物	40%										

注意事項	
備考	関連科目：統計学、マクロ経済学など
リンク	
URL	

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	経済数学(Mathematics for Economics)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	経済学部	前期	火4	氏名　中本　裕哉 E-mail　y-nakamoto@oita-u.ac.jp　内線　7677

授業の概要	経済理論の理解や経済分析には数学が不可欠である。本講義では，経済学を学ぶ上で必要な入門的な数学（主に微分積分，線形代数）に焦点を当て，数学スキルの修得を目指す。さらに，数学スキルと経済分析の関連性を理解することで，経済学を学ぶための基盤を築く。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	経済理論の理解や経済分析に必要となる入門的な数学スキルを修得する。										
目標2											
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	ガイダンス
2	関数
3	均衡分析
4	指数・対数
5	数列
6	導関数
7	1変数の微分
8	中間試験
9	多変数の微分
10	偏微分
11	全微分
12	最適化
13	等式制約のもとでの最適化
14	ベクトルと行列
15	行列演算

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	毎回，講義の終わりに小テストを実施する。	
B:意見の表現・交換			
C:応用志向	○		
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	参考書などを必要に応じて予習する。(15h)
事後学修	授業で扱う例題、小テストで復習する。(30 h)

教科書	教科書を指定しない
参考書	A.C.チャン・K.ウエインライト『現代経済学の数学基礎〈上〉第4版』彩流社，2020年

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
小テスト	30%	○									
中間試験	30%	○									
期末試験	40%	○									

小テスト，中間試験，期末試験から総合的に評価する。

注意事項	
備考	
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	統計学(Statistics)	学部基盤科目 経済メジャー系	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	経済学部	前期	金2	氏名　中本　裕哉　　徳丸　一彦 E-mail　y-nakamoto@oita-u.ac.jp　内線　7677

授業の概要

統計学は，「科学の文法である」と表現されるように，今日の科学において重要な役割を果たしている。また，私たちの身の回りにも統計学が関わっている事例が溢れている（例えば，生命保険料の計算，選挙結果の速報，ワクチンの効果の判定など）。本講義では，統計学の基礎を学び，様々な統計が生まれるまでのプロセスを正しく理解することで，現実社会における経済事象を公正かつ適切に分析・解釈することを目指す。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	記述統計および確率論と確率分布の基礎を修得する。										
目標2	推定や仮説検定の基礎を修得する。										
目標3	統計的手法を用いて，現実社会における経済事象の分析とその結果の考察ができる。										
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	ガイダンス
2	度数分布とヒストグラム
3	データの整理I：平均，分散，標準偏差
4	データの整理II：相関係数
5	確率
6	確率変数I：確率分布
7	確率変数II：確率変数の期待値と分散
8	様々な確率分布
9	母集団と標本
10	区間推定I：母分散既知
11	区間推定II：母分散未知
12	仮説検定I：両側検定
13	仮説検定II：片側検定
14	回帰分析
15	まとめ

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	毎回，講義の終わりに小テストを実施する。	
B:意見の表現・交換			
C:応用志向	○		
D:知識の活用・創造	○		

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	参考書などを必要に応じて予習する。(15h)
事後学修	授業で扱う例題，小テスト，参考書の章末問題などで復習する。(30 h)

教科書	教科書を指定しない
参考書	小島寛之『統計学入門』 ダイヤモンド社，2006年 森棟公夫ほか著『統計学（改訂版）』 有斐閣，2015年

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
小テスト	30%	○	○								
レポート課題	30%	○									
期末試験	40%	○	○	○							

小テスト，レポート課題，期末試験から総合的に評価する。

注意事項	小テストや試験では，平方根(√)の計算ができる電卓が必要です。ただし，試験では電卓機能を備えた携帯端末（スマートフォンなど）の使用は認められません。
備考	
リンク	統計WEB統計学の時間（下記URL）を準備学修，事後学修，試験勉強に活用すると良い。 URL　https://bellcurve.jp/statistics/course/

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	統計学(Statistics)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	経済学部	前期	金2	氏名　中本　裕哉 E-mail　y-nakamoto@oita-u.ac.jp　内線　7677

授業の概要	統計学は，「科学の文法である」と表現されるように，今日の科学において重要な役割を果たしている。また，私たちの身の回りにも統計学が関わっている事例が溢れている（例えば，生命保険料の計算，選挙結果の速報，ワクチンの効果の判定など）。本講義では，統計学の基礎を学び，様々な統計が生まれるまでのプロセスを正しく理解することで，現実社会における経済事象を公正かつ適切に分析・解釈することを目指す。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	記述統計および確率論と確率分布の基礎を修得する。										
目標2	推定や仮説検定の基礎を修得する。										
目標3	統計的手法を用いて，現実社会における経済事象の分析とその結果の考察ができる。										
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	ガイダンス
2	度数分布とヒストグラム
3	データの整理I：平均，分散，標準偏差
4	データの整理II：相関係数
5	確率
6	確率変数I：確率分布
7	確率変数II：確率変数の期待値と分散
8	様々な確率分布
9	母集団と標本
10	区間推定I：母分散既知
11	区間推定II：母分散未知
12	仮説検定I：両側検定
13	仮説検定II：片側検定
14	回帰分析
15	まとめ

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	毎回，講義の終わりに小テストを実施する。	
B:意見の表現・交換			
C:応用志向	○		
D:知識の活用・創造	○		

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	参考書などを必要に応じて予習する。(15h)
事後学修	授業で扱う例題，小テスト，参考書の章末問題などで復習する。(30 h)

教科書	教科書を指定しない
参考書	小島寛之『統計学入門』 ダイヤモンド社，2006年 森棟公夫ほか著『統計学（改訂版）』 有斐閣，2015年

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
小テスト	30%	○	○								
レポート課題	30%	○									
期末試験	40%	○	○	○							

小テスト，レポート課題，期末試験から総合的に評価する。

注意事項	小テストや試験では，平方根(√)の計算ができる電卓が必要です。ただし，試験では電卓機能を備えた携帯端末（スマートフォンなど）の使用は認められません。
備考	
リンク	統計WEB統計学の時間（下記URL）を準備学修，事後学修，試験勉強に活用すると良い。 URL　https://bellcurve.jp/statistics/course/

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K142E405	経済統計学(Economic Statistics)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経済学部	後期	水2	氏名　中本　裕哉 E-mail　y-nakamoto@oita-u.ac.jp　内線　7677

授業の概要

国民経済計算(SNA: System of National Accounts)は経済活動を測定する国際的な体系である。本講義では，国民経済計算(SNA)を中心に，さまざまな経済統計がどのような社会経済現象の実態を捉えているのか理解する。さらに，産業連関表の仕組みや産業連関モデルについても学習し，産業連関分析手法を修得する。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	国民経済計算体系の基礎を修得する。										
目標2	マクロ経済モデルを修得する。										
目標3	マクロ経済モデルに基づく経済分析と経済事象の考察ができる。										
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	ガイダンス
2	国民経済計算体系Ⅰ：国内総生産
3	国民経済計算体系Ⅱ：国民所得
4	物価指数・数量指数Ⅰ：パーシェ指数
5	物価指数・数量指数Ⅱ：ラスパイレス指数
6	産業連関表Ⅰ：産業連関表の見方
7	産業連関表Ⅱ：投入係数と付加価値係数
8	産業連関モデルⅠ：レオンチェフ逆行列
9	産業連関モデルⅡ：影響力係数と感応度係数
10	産業連関モデルⅢ：競争輸入型モデル
11	産業連関モデルⅣ：経済波及効果
12	接続産業連関表
13	環境勘定Ⅰ：排出係数
14	環境勘定Ⅱ：フットプリント
15	まとめ

アクティブラーニング

A:知識の定着・確認	○	毎回，講義の終わりに小テストを実施する。
B:意見の表現・交換	○	
C:応用志向		
D:知識の活用・創造		

その他の工夫

時間外学修の内容と時間の目安

準備学修	参考書などを使用して予習する。(15h)
事後学修	授業で扱う例題や小テストなどを通して復習する。(30 h)

教科書

教科書を指定しない。

参考書

白砂堤津耶『例題で学ぶ初歩からの計量経済学　（第2版）』日本評論社，2007年

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
小テスト	30%	○	○	○							
期末試験	70%	○	○	○							

小テスト，期末試験から総合的に評価する。

注意事項

基礎的な行列演算は本講義で解説しますが，入門レベルの線形代数学の理解が必須です。

備考

リンク

URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K142E406	経済学国際セミナー(International Seminar on the Global and Japanese Economy)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経	前期	金2	氏名　柴田　茂紀（経） E-mail　sshiba@oita-u.ac.jp　内線　7715

授業の概要	The aim of this course is to give students a series of basic knowledge about global economies.

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	Obtained basic knowledge regarding globalization	○	○								
目標2	Become capable at evaluating economic policies in this domain.	○	○								
目標3	Improved their ability to participate in discussions.	○	○								
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	Introduction
2	The concepts of global economy
3	Selected case studies of global economies (article 1)
4	Selected case studies of global economies (article 2)
5	Selected case studies of global economies (article 3)
6	Selected case studies of global economies (article 4)
7	Global problems (article 5)
8	Global problems (article 6)
9	Global problems (article 7)
10	Global problems (article 8)
11	Global problems (article 9)
12	The relationship between Japan and global economy (article 10)
13	The relationship between Japan and global economy (article 11)
14	The relationship between Japan and global economy (article 12)
15	Conclusion

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	Students need to read assignments before coming to class.	
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向	○		
D:知識の活用・創造	○		

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	Read the appropriate material before coming to class(15h)
事後学修	Homeworks to cover this class(15h)
教科書	To be provided by lecturer
参考書	To be provided by lecturer

成績評価の方法及び評価割合 評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
class-based exercises	50%	○	○	○							
presentations	50%	○	○	○							

注意事項	This course will consist of lectures, discussions and presentations.
備考	この授業は留学生が参加する可能性があり，すべて英語で実施します。
リンク	
URL	

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K142E407	国際貿易論(International Trade Theory)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経	前期	火3	氏名　柴田　茂紀 E-mail　sshiba@oita-u.ac.jp　内線　7715

授業の概要

1）国際貿易の考え方や現状についての理解を深める。
2）「現実」を考えるための「理論」を学ぶ。
3）貿易という側面から、現在の「国際経済を見る眼」を養う。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	国際貿易が過去から現在まで、どのように展開してきたのか理解する。	○									
目標2	国際貿易理論の意味と背景、その現実性を理解する。	○									
目標3	国際貿易に関するニュースの意味や背景がわかり、自分なりの意見を持てるようになることが最終的な目的である。	○				○					
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	国際貿易論の範囲
2	国際貿易論の基礎理論１（絶対優位と比較優位）
3	国際貿易論の基礎理論２（ヘクシャー＝オリーン・モデルとその後の展開）
4	国際貿易の歴史と理論
5	国際貿易の歴史と制度
6	現在の国際貿易システム
7	進展する地域間貿易
8	中間のまとめとテスト
9	国際収支とは何か
10	国際収支から見えるもの
11	国際貿易の事例研究
12	直接投資の考え方
13	直接投資と国際貿易との関係
14	直接投資の事例研究
15	まとめ

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	・授業終了時に、授業内容についての小テストを毎回実施します。 ・授業終了後に、大学のオンライン学習システム（Moodle)で補足事項をまとめておきます。自習の際、利用して下さい。	・欠席した場合は、授業支援システム（moodle）で提示した問題を通じて自習する。
B:意見の表現・交換			
C:応用志向	○		
D:知識の活用・創造	○		

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	必要に応じて、授業支援システム（moodle）で提示(5h)
事後学修	授業で学んだことを活用し、授業支援システム（moodle）で提示した問題を通じて復習する。(25h)

教科書	配布物に基づいて授業を進める。
参考書	必要に応じて指示する。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
平常点	60%	○	○	○							
期末試験（またはレポート）	40%	○	○	○							

新型コロナの状況次第で期末レポートになる可能性もあります。

注意事項	1）欠席回数に応じて課題がある（遅れを取り戻す措置）。 2）ほぼ毎回、小テストを実施する。
備考	オンライン授業の場合は、授業前に配布資料を印刷しておくこと
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K132E302	世界経済論(World Economy)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経	後期	火3	氏名　柴田　茂紀 E-mail　sshiba@oita-u.ac.jp　内線　7715

授業の概要	1）世界経済を理解する上での基礎理論を学ぶ（理論分析）。 2）世界経済の構造や現状についての理解を深める（現状分析）。 3）幅広い観点から「世界経済を見る眼」を養う（多角分析）。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	世界経済の展開を理解する。	○									
目標2	近年の世界経済の特徴を理解する。	○									
目標3	世界経済に関するニュースの意味や背景がわかり、自分なりの意見を持てるようになることが最終的な目的である。	○				○					
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	世界経済論の分析対象
2	グローバル化の特色と変化
3	技術革新とグローバル化
4	情報化とグローバル化
5	経済格差とグローバル化
6	「コーヒー」から考えるグローバル化
7	フェアトレードの課題と可能性
8	「カネ」の移動から考えるグローバル化
9	為替レートの考え方（円高と円安、名目為替レートと実効為替レート）
10	為替レートの基礎理論（購買力平価とアセットアプローチ）
11	為替制度（変動相場制と固定相場制）
12	国際経済統計の分析方法
13	「Tシャツ」から考えるグローバル化
14	グローバル経済の事例紹介
15	まとめ

アクティブラーニング		
A:知識の定着・確認	○	・授業終了時に、授業内容についての小テストを毎回実施します。 ・授業終了後に、大学のオンライン学習システム（Moodle)で補足事項をまとめておきます。自習の際、利用して下さい。
B:意見の表現・交換		
C:応用志向	○	
D:知識の活用・創造	○	

その他の工夫	
	・欠席した場合は、オンライン学習システム(moodle)を通じて該当部分を自習することになります。

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	必要に応じて、授業支援システム（moodle）で提示(5h)
事後学修	授業で学んだことを活用し、オンライン学習システム(moodle)で提示した問題を通じて復習する。(25h)

教科書	配布資料に基づいて授業を進める。
参考書	授業を通じて紹介する。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
平常点	60%	○	○								
期末試験	40%	○	○								

注意事項	1）理由に関係なく、欠席回数に応じて課題がある（遅れを取り戻す措置）。 2）ほぼ毎回、小テストを実施する。
備考	・オンライン授業の場合は、授業前に配布資料を印刷しておくこと
リンク	
URL	

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K132E303	開発経済論(Development Economics)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3	経	前期	金4	氏名　木村　雄一 E-mail　ykimura@oita-u.ac.jp　内線　7689

授業の概要

2019年にノーベル経済学賞を受賞した開発ミクロ経済学のスター研究者２人による研究サーベイ『貧乏人の経済学』から、貧困の原因と低所得層の厚生改善について、最近20年ほどに蓄積された新しい知見を学ぶ。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	貧困の原因と貧困削減について、1) 各トピックについて重要な問題設定を把握する。	○									
目標2	2) 実証ミクロ経済学の実証研究の方法に触れる。		○								
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	Banerjee and Duflo 1章 貧困の罠と永続的貧困、マイクロデータ と実験経済学
2	B-D 2章 栄養の貧困の罠？ (1)： 栄養摂取の不足による貧困の罠は永続的貧困の原 因になっているか
3	B-D 2章 栄養の貧困の罠？ (2)： 栄養摂取の不足による貧困の罠は永続的貧困の原 因になっているか
4	教育投資 (1) 子どもへの教育投資はどのように決まるか：教育のミク ロ経済学
5	教育投資 (2) キュメンタリー『バーミヤンの少年』教育投資と資金 制約
6	教育投資 (3) 教育のエリートバイアス；教育投資の男女差はなぜ生まれるか? Banerjee and Duflo スライド1
7	教育投資 (4)： 教育のエリートバイアス；教育投資の男女差はなぜ生まれるか? Duflo and Duflo スライド2
8	ディスカッション
9	女性の労働供給と社会的地位 (1)： Robert Jensen QJE 2012
10	女性の労働供給と社会的地位 (2)： Robert Jensen QJE 2012
11	女性の労働供給と社会的地位 (3)： The Economist (July 7th 2018) How India Fails Its Women.
12	B-D 5章 出産選択と所得 (1)：子沢山が低所得の原因になっているか?
13	B-D 5章 出産選択と所得 (2)：子沢山が低所得の原因になっているか?
14	B-D 5章 出産選択と所得 (3)：子沢山が低所得の原因になっているか?
15	ディスカッション

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認		Moodle コメント欄に、受講者は基本的に全員が毎回、講義の議論内容に関する質問やコメントを記入する。次回の講義でフィードバックし、議論の発展を図る。	
B:意見の表現・交換			
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	教材の該当箇所を事前に読むことを推奨する（15h）。
事後学修	当該箇所の復習、関連文献の内容の理解（15h）、期末試験の内容準備（15h）。

教科書

【教科書】アビジット・バナジー、エスター・デュフロ 2011『貧乏人の経済学：もう一度貧困を根っこから考える』みすず書房. (Abijit Banerjee and Esther Duflo 2009. Poor Economics: A Radical Rethinking of the Way to Fight Global Poverty. PublicAffairs, Paper back / Kindle)

参考書

The Economist “Indian schools: Now make sure they can study” (June 10th 2017).
“How india fails its women?” (July 7th 2018)
Robert Jensen 2012, “Do Labor Market Opportunities Affect Young Women’s Work and Family Decisions?” Quarterly Journal of Economics.

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
期末試験。	90%										
質問、コメントにボーナススコアが付与される	10%										

出席要件を適用する。基準を満たした受講者が期末試験を受けることができる。

注意事項

備考

教材は全て pdf を Moodle で配布する。

リンク

URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K143E405	アジア経済発展論(Economic Development in Asia)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3,4	経	後期	金4	氏名　木村　雄一 E-mail　ykimura@oita-u.ac.jp　内線　7689

授業の概要

世界に豊かな地域と貧しい地域があるのは何故か、という大問題に対する探求は、この10年ほど、伝統的な経済学の範疇（成長理論と実証、貿易・産業立地の理論）を飛び越え、政治学、経済史、文化形成など、社会科学のあらゆる分野・トピックにまたがる「制度分析」として大きな発展を見せている。制度分析の最新の知見を見渡すことで、現在の先進国が16-19世紀に現在の先進国が辿った制度移行プロセスによって経済成長を達成できた理由、サブサハラ・アフリカや北朝鮮、西アジアなど、現在の貧困地域が貧困である理由について探求する。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	経済発展と政治制度・経済制度、政治体制との関係、制度形成や制度が変化するメカニズムについて、論点を把握すること。	○									
目標2	明確な問題意識を持ち、論理的に考えられるようになること。		○								
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	本科目の動機付けについて：国家形成、制度形成は経済成長、貧困削減にどう影響するか
2	帝国主義支配と国内の社会階層・制度形成への影響
3	制度分析：制度の経済学 戸堂9章
4	制度分析：制度の経済学 戸堂10章
5	経済制度形成と経済的繁栄-停滞の地域差 Acemoglu and Robinson 3章
6	経済制度形成と経済的繁栄-停滞の地域差 Acemoglu and Robinson 3章
7	論点整理：民主、独裁・国家秩序、繁栄と停滞の地域差はなぜ起きるか？
8	経済制度形成と経済的繁栄-停滞の地域差 Acemoglu and Robinson 4章
9	経済制度形成と経済的繁栄-停滞の地域差 Acemoglu and Robinson 4章
10	市場アクセスと政治制度形成 Acemoglu et al. 2005
11	市場アクセスと政治制度形成 Acemoglu et al. 2005
12	革命、民主体制形成の成否はどう決まるか Acemoglu and Robinson 2005
13	革命、民主体制形成の成否はどう決まるか Acemoglu and Robinson 2005
14	革命、民主体制形成の成否はどう決まるか Acemoglu and Robinson 2005
15	論点整理：民主・独裁、国家秩序、繁栄と停滞の地域差はなぜ起きるか？

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	参加者は、基本的に全員が毎回、Moodle コメント欄に、講義の議論内容に関する質問やコメントを記入する。次回の講義でフィードバックし、理解の共有、論点整理に役立て、論点の発見や議論の発展を図る。	
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向	○		
D:知識の活用・創造	○		

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	教科書は事前に読むことを推奨する（15h）
	事後学修	当該箇所の復習、関連文献の内容理解（15h）、試験解答の準備（15h）

教科書

Acemoglu and Robinson 2012. Why Nations Fail? The Origins of Power, Prosperity, and Poverty. New York: Crown Publishers. （鬼澤 忍訳『国家はなぜ衰退するのか：権力・繁栄・貧困の起源』.）
Acemoglu, Johnson, Robinson. 2005a “The Rise of Europe: Atlantic Trade, Institutional Change, and Economic Growth.” American Economic Review 95

参考書

Acemoglu and Robinson 2005b. Economic Origins of Democracy and Dictatorship. Cambridge University Press.
戸堂康之. 2021.『開発経済学入門 第２版』新世社 9,10章.
吉田淳 2020. アフリカ経済の真実 ――資源開発と紛争の論理. ちくま新書.

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
期末試験	90%										
コメント・質問にボーナススコアが付与される	10%										

注意事項

（参考書つづき）
[国家・政治体制形成]

備考

ある程度、英語のマテリアルを読む必要がある。

リンク

URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K143E406	ＥＵの政治経済(Politics and Economics in EU)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	３・４	経済学部	前期	木3	氏名　デイ・スティーブン E-mail　srday@oita-u.ac.jp　内線　6676

授業の概要

The goal of this module is to provide learners with: an in-depth understanding of the historical and contemporary development of the European Union, its key institutions, a selection of EU policies, and the process and impact of Brexit. At a time when the EU is facing multiple challenges, within and beyond its borders, this class will also seek to uncover the reasons behind these challenges.

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	Build up a knowledge and understanding of the EU	○	○	○			○				
目標2	Facilitate an ability to critically discuss and evaluate the process of European integration	○			○		○				
目標3	Understand why the EU faces a myriad of challenges and how it deals with those challenges	○	○		○		○				
目標4	Understand and evaluate the Brexit process	○	○		○		○				
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	Introductory overview - the importance of critical thinking
2	Historical background - key events prior to WWII
3	Historical background - emerging from the ashes of WWII
4	Thinking about EU integration - from an FTA to a Common Market
5	Thinking about EU integration - is the EU heading towards a political union?
6	What is the EU? Key EU Institutions
7	Enlargement
8	Borders and Identity - building a transnational political space
9	Dealing with Internal Challenges - Member States breaking the rules
10	Dealing with External Challenges - The EU on the global stage
11	Case Study - European parliamentary elections - building a transnational democracy
12	Case Study - European Political Parties (Europarties)
13	Case Study - The EU and the UK
14	Case Study - Remembering Brexit
15	Thinking the future

アクティブラーニング

A:知識の定着・確認	○	As an interactive class there will be a number of individual and small-group task-based exercises. This will include: quizzes, exercises in applying theory to real-world scenarios and evaluations of various types of media reports.
B:意見の表現・交換	○	
C:応用志向		
D:知識の活用・創造	○	

その他の工夫

Students will be expected to keep a class log.
今日学んだこと　内容の概略、感想、疑問に思ったことなど
What you learned today; overview of class; impressions; issues you wondered about

時間外学修の内容と時間の目安

準備学修	(30 hours) - Please review preparatory materials prior to the class. This will include reading newspaper/magazine articles and listening to MP3 files in order to build up your background knowledge of European history and EU affairs.
事後学修	(15 hours) - Update the class log. Check related documents. Re-Watch and review the news/documentary programmes highlighted in class.

教科書

For beginners - John Pinder and Simon Usherwood (2018), The European Union: a very short introduction, (4th edition) Oxford: Oxford University Press. ISBN-13: 978-0198808855

参考書

Additional material will be provided in class

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
Final Assessment	50%	○		○	○						
Class-based exercises	50%	○	○	○	○						

注意事項

As this class is taught in English TOEIC500 or EIKEN level 2 is recommended. このクラスは英語で行われるため、TOEIC500または英検2級を推奨します。

備考

Preparatory reading prior to class so as to facilitate discussion will be expected.
We will make use of newspaper, academic journals, video and web-based material.

リンク

URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	グローバルスタディ入門(Introduction to Global Studies) (旧授業科目：グローバル化と政治経済)	経済学部 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3，4	経済学部	後期		氏名　デイ スティーブン E-mail　srday@oita-u.ac.jp　内線　6676

授業の概要

The purpose of this module is to provide learners with an understanding of global issues and the impact of globalization from a political and economic perspective as they continue to dominate our lives – for good or for ill. In what ways has globalization impacted upon the nature of state sovereignty? Facilitated the role that global-level institutions play? Been challenged by the rise of populism? This leads us to ask an important question: Is globalization now in reserve?

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	Develop a knowledge and awareness of global issues	○					○				
目標2	Provide the means to comment upon developments in a critical and lucid fashion	○	○		○		○				
目標3	Evaluate and dissect key issues and different schools of thought surrounding the globalization debate.	○			○		○				
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	Introductory remarks
2	The importance of critical thinking skills
3	Uncovering the dynamics of political and economic change
4	Remembering the Cold War and 1989
5	Key political and economic developments 1945-1989 - Keynesianism and Neo-liberalism
6	Revisiting the global financial crisis (2007-2009)
7	The world today - an era of uncertainty?
8	Political, economic and cultural globalization
9	Interpreting globalization - hyperglobalists, sceptics and transformationalists
10	Thinking about global governance
11	Debates about borders in a globalized world
12	Debates about identity in a globalized world
13	Confronting global risks - wealth inequality
14	Confronting global risks - climate change
15	Where next for globaliztion?

アクティブラーニング

A:知識の定着・確認	○	As an interactive class there will be a number of individual and small-group task-based exercises. This will include: quizzes, crosswords, exercises in applying theory to real-world scenarios and evaluating a wide range of media reports.
B:意見の表現・交換	○	
C:応用志向		
D:知識の活用・創造	○	

その他の工夫

Students will be expected to keep a class log.
今日学んだこと　内容の概略、感想、疑問に思ったことなど
What you learned today; overview of class; impressions; issues you wondered about

時間外学修の内容と時間の目安

準備学修	(30 hours) - Please review the preparatory materials prior to the class. This will include reading, listening to MP3 files and watching programmes about global politics. Seek out Japanese language material in order to build up your background knowledge of global events.
事後学修	(15 hours) - Update the class log. Check related documents. Watch and review the news/documentary programmes highlighted in class.

教科書

Manfred B. Steger (2023), Globalization: A Very Short Introduction, (6th edition) Oxford: Oxford University Press. ISBN-13: 978-0192886194

参考書

Additional material will be distributed during the course of the module

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
Final Assessment	50%	○		○							
Class-based exercises	50%	○	○	○							

注意事項

Learners will be expected to have a determination to study in English and a willingness to participate in classroom-based activities and discussion in English.※グローバルスタディ入門を履修すると、グローバル化と政治経済に読み替えられます。

備考

Preparatory reading prior to class so as to facilitate discussion will be expected.
We will make use of newspaper, academic journals, video and web-based material.

リンク

URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K132E304	現代国際関係論(Contemporary International Relations)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経済	前期集中	他	氏名　高山　英男（非常勤講師） E-mail　koyama@oita-u.ac.jp　内線

授業の概要

現代の国際関係は様々な難題が生じており、戦後維持されてきた国際秩序（パックス・アメリカーナ）が揺らいでいるかのようです。冷戦終結後にアメリカの一極的覇権体制が生まれたと言われました。しかし、今日、様々な勢力の挑戦を受けて、覇権体制が動揺しています。アメリカが主導してきた国際秩序に対して、ロシアや中国が挑戦しています。このような世界をどのような視点から見るかについてまず検討し、それから、今日の世界の主要な問題について検討します。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	国際関係の理論については、現在の国際関係を理解するための３つのアプローチについて理解して、それを使って世界を見直す										
目標2	国際関係を構造的に理解する。										
目標3	現代の国際政治の主要問題を理解する。										
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	はじめに：講義の目標とねらいについて
2	国際関係論のアプローチ（１）　リアリズムとネオ･リアリズム
3	国際関係論のアプローチ（２）　リベラリズムとネオ･リベラリズム
4	国際関係論のアプローチ（３）　マルクス主義と世界システム論
5	国際関係の構造（１）
6	国際関係の構造（２）
7	政治体制と国際関係
8	国際連合の役割
9	地域統合の未来（１）
10	地域統合の未来（２）
11	国連のＰＫＯ、人道的介入
12	核兵器の廃絶
13	グローバリゼーション（１）
14	グローバリゼーション（２）
15	まとめ：今日の世界情勢

アクティブラーニング

A:知識の定着・確認		より深く学ぶためには、テキストを読むだけではなく、参考書も読むようにして下さい。
B:意見の表現・交換		
C:応用志向		
D:知識の活用・創造		

その他の工夫：新聞の切り抜きなどを使って、具体的な事件の理解を深める。

時間外学修の内容と時間の目安

準備学修	テキストを読んで、わからないところを書き出し、自分で調べてみる。２時間。
事後学修	レジュメを読み返し、参考文献を調べて、ノートにまとめておく。２時間

教科書：村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将著『国際政治学をつかむ』有斐閣、2015年

参考書：読みやすい新書などを講義の中で指示します。参考文献はとても大事です。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
レポート	100%										

注意事項：遅刻をしないように気をつけてください。

備考：日本や日本人を巻き込んだ大きな事件が起こっています。
国際政治が身近なものになっています。ニュースやその背景に注目してください。

リンク

URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K142E408	現代国際関係史(Contemporary International Political History)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経済学部	後期集中	他	氏名　高山　英男（非常勤講師） E-mail　koyama@oita-u.ac.jp　内線

授業の概要	現在の国際政治の構造をアメリカの一極覇権体制と捉えて、冷戦後にその体制がどのように形成され、維持されてきたかと言うことを焦点として、10年ごとに時代を輪切りにして、アメリカ、ロシア、中国、ＥＵの4つの主体の政治外交戦略について概説します。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	アメリカの冷戦後の戦略について理解する。										
目標2	ロシアの冷戦後の政治外交戦略について理解する										
目標3	中国の冷戦後の政治外交戦略について理解する。										
目標4	ＥＵの冷戦後の統合戦略について理解する。										
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容	
1	はじめに：講義の目標とねらいについて
2	アメリカ保守革命の世界戦略（１）
3	アメリカ保守革命の世界戦略（２）
4	アメリカ保守革命の世界戦略（３）
5	アメリカ保守革命の世界戦略（４）
6	冷戦終結後の新世界秩序の模索（１）
7	冷戦終結後の新世界秩序の模索（２）
8	冷戦終結後の新世界秩序の模索（３）
9	冷戦終結後の新世界秩序の模索（４）
10	２１世紀の世界戦略：新たな覇権体制を求めて（１）
11	２１世紀の世界戦略：新たな覇権体制を求めて（２）
12	２１世紀の世界戦略：新たな覇権体制を求めて（３）
13	２１世紀の世界戦略：新たな覇権体制を求めて（４）
14	現段階の世界政治の構造
15	まとめ

アクティブラーニング				その他の工夫
A:知識の定着・確認		より深く学ぶためには、テキストを読むだけではなく、参考書も読むようにして下さい。		新聞の切り抜きなどを使って、具体的な事件の説明をする。
B:意見の表現・交換				
C:応用志向				
D:知識の活用・創造				

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	テキストを読んでくるとともに、わからないところを調べる。２時間。
事後学修	レジュメを読み直して、ノートと比較し、参考文献を読む。２時間。

教科書	小川浩之・板橋拓己・青野利彦著『国際政治史』有斐閣、2018年。
参考書	そのつど講義中に指示します。

成績評価の方法及び評価割合 評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
レポート	100%										

注意事項	ムードル上にレポート課題や期日などを示しますので、気をつけてください。
備考	アメリカは戦後世界をリードしてきた覇権国家です。大統領の戦略や具体的な政策が日本だけでなく、世界中の国々に影響を与えます。関心を持って勉強してください。
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K142E409	経済地理学Ⅰ(Economic Geography Ⅰ)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2，3，4	経	前期	金3	氏名　美谷　薫 E-mail　　内線

授業の概要

私たちの身のまわりの経済現象は，そのすがたが地域によって大きく異なっており，また日々変化してきています。本講義では，そのような産業・経済の地域性の実態とそれらが生み出される背景を理解する手がかりとして，地理学的な視点から産業の立地や地域産業の変化について概説していきます。具体的には，地理学全体に共通する基礎的な概念を紹介した後に，農業，工業，商業などについて，伝統的な立地に関する理論，現代日本における産業の地域性，産業を取り巻く環境の変化とそれへの対応などについて取り上げていきます。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	地理学，あるいは経済地理学で用いられる基礎的な概念や分析手法を理解し，活用することができる。										
目標2	地図の読み取りや統計資料の分析を通じて，さまざまな経済現象の地域的差異を読み取ることができる。										
目標3	さまざまな経済現象の地域的差異とその背景について考察し，的確に表現できる。										
目標4	主題図を中心とした地図表現の基礎を習得し，活用することができる。										
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	イントロダクション：地理学・経済地理学という学問
2	地理学の見方・考え方①：地域
3	地理学の見方・考え方②：景観
4	地理学の見方・考え方③：環境
5	農業と地域①：農業立地の理論
6	農業と地域②：農業地域区分と農業の地域性
7	農業と地域③：社会環境と農業の変容
8	工業と地域①：工業立地の理論
9	工業と地域②：工業地域の構造
10	工業と地域③：産業集積と空間的分業
11	商業と地域①：商業立地の理論と商圏
12	商業と地域②：商業環境の変化と中心商店街
13	商業と地域③：流通システムの再編と小売業
14	サービス業と地域
15	総括

アクティブラーニング

A:知識の定着・確認	
B:意見の表現・交換	
C:応用志向	
D:知識の活用・創造	

受講生の数にもよりますが，適宜グループワークなどを実施することがあります。また，フィールドワークを伴う作業レポートの課題を設定します。

その他の工夫：毎回，板書と配布資料の説明により講義を進めます。

時間外学修の内容と時間の目安

準備学修	講義で取り上げられる項目について，適宜，ニュースなどで最新の状況を確認するとともに，自身の身近な事例について情報収集を行っておいてください（20h）。
事後学修	ノートや資料などで復習を進めてください。なお，授業時間内に作業課題が終わらなかった場合は，次回講義までに各自で作業を行ってもらうことがあります（20h）。

教科書

特に指定しません。各回の授業で関連する資料を配布します。

参考書

講義全体に関連する参考書としては，以下のようなものがあります。その他については，講義中に紹介します。
伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編著　2020.『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房.
経済地理学会編　2020.『キーワードで読む経済地理学』原書房.

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
各回の講義での小課題の提出と作業内容	40%										
作業レポート	20%										
期末試験（レポートとする場合があります）	40%										

注意事項

各回の講義で簡単な統計資料の分析や図表の読み取りなどの作業を行うことがありますので，出席に際しては，色鉛筆（12色程度），定規，電卓（スマートフォンのアプリで構いません）を用意してください。

備考

履修条件は特にありませんが，全体として作業量の多い講義ですので，その点はあらかじめご承知おきください。

リンク

URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	地方公共団体職員
実務経験をいかした教育内容	講義のなかの一部項目に限られますが，地方公共団体職員の経験のある教員が，現場での実態を踏まえながら，地域・都市政策の内容や課題について解説します。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K142E410	経済地理学Ⅱ(Economic Geography II)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2，3，4	経	後期	金3	氏名　美谷　薫 E-mail　　内線

授業の概要

私たちの身のまわりの地域のすがたは，経済現象をはじめとするさまざまな要素によって，日々大きく変化してきています。本講義では，経済現象の展開が都市，農村，山村といったさまざまな地域に及ぼした影響，また，それらに対する地域運営の主体の対応について，日本の高度経済成長期以後の事例を中心に取り上げていきます。「経済地理学Ⅰ」が経済現象そのものを対象とするのに対して，本講義ではより広義の「経済地理学」の内容を中心としていきます。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	地理学，あるいは経済地理学で用いられる基礎的な概念や分析手法を理解し，活用することができる。										
目標2	地図の読み取りや統計資料の分析を通じて，さまざまな地域変容の実態を読み取ることができる。										
目標3	さまざまな地域変容の背景とそれへの対応について考察し，的確に表現できる。										
目標4	主題図を中心とした地図表現の基礎を習得し，活用することができる。										
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	イントロダクション
2	地域と人口①：人口の地域性と人口構成
3	地域と人口②：人口移動とライフコース
4	村落の変容①：村落社会の基盤
5	村落の変容②：経済成長と村落の変容
6	都市の変容①：都市の概念と都市域
7	都市の変容②：都市化と都市システム
8	都市の変容③：都市の内部構造
9	都市の変容④：都市問題と都市政策
10	地域と行政・政策①：地域社会の変化と公的セクターの拡大
11	地域と行政・政策②：地方行財政と市町村合併
12	地域と行政・政策③：少子高齢化と福祉サービスの地域差
13	地域と行政・政策④：人口減少社会と生活インフラ
14	地域と行政・政策⑤：地域振興と観光開発
15	総括

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認		受講生の数にもよりますが，適宜グループワークなどを実施することがあります。	毎回，板書と配布資料の説明により講義を進めます。
B:意見の表現・交換			
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安

準備学修	講義で取り上げられる項目について，適宜，ニュースなどで最新の状況を確認するとともに，自身の身近な事例について情報収集を行っておいてください（20h）。
事後学修	ノートや資料などで復習を進めてください。なお，授業時間内に作業課題が終わらなかった場合は，次回講義までに各自で作業を行ってもらうことがあります（20h）。

教科書

特に指定しません。各回の授業で関連する資料を配布します。

参考書

講義全体に関連する参考書としては，以下のようなものがあります。その他については，講義中に紹介します。
伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編著　2020.『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房.
神谷浩夫・梶田　真・佐藤正志・栗島英明・美谷　薫編著　2012.『地方行財政の地域的文脈』古今書院.

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
各回の講義での小課題の提出と作業内容	40%										
作業レポート	20%										
期末試験（レポートとする場合があります）	40%										

注意事項

各回の講義で簡単な統計資料の分析や図表の読み取りなどの作業を行うことがありますので，出席に際しては，色鉛筆（12色程度），定規，電卓（スマートフォンのアプリで構いません）を用意してください。

備考

履修条件は特にありませんが，全体として作業量の多い講義ですので，その点はあらかじめご承知おきください。

リンク

URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	地方公共団体職員
実務経験をいかした教育内容	地方公共団体職員の経験のある教員が，現場での実態を踏まえながら，地域・都市政策の内容や課題についても取り上げていきます。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K142E412	労働経済論Ⅱ(Labor Economics II)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経	後期・集中	他	氏名　石井まこと E-mail　mak@oita-u.ac.jp　内線　7698

授業の概要	労働経済論の応用編として、日本・海外の労働・生活現場を描いたリアルな映画を教材として、労働経済が抱える課題や解決の方策を講義・議論していきます。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	日本・海外の労働経済の実態や課題についてより深く知ろうとする意欲が高まる	○	○	○							
目標2	リアルな労働経済の実態についてアプローチする意欲が高まる	○	○	○							
目標3	労働経済の歴史・現状について自分ごととして論じることができる	○	○	○							
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	オリエンテーション－労働とは何か
2	映画で考える労働経済①－歴史編：蟹工船・あゝ野麦峠
3	労働経済の発展史
4	映画で考える労働経済②－産業発展編：キューポラのある街
5	産業化のなかの労働と生活
6	映画で考える労働経済③ー企業労働編１：沈まぬ太陽
7	企業組織と労使関係
8	映画で考える労働経済④ー企業労働編２：七つの会議
9	企業成長と労働倫理
10	映画で考える労働経済⑤－不安定就労編：フツーの仕事がしたい
11	規制緩和と労働経済
12	映画で考える労働経済⑥－海外編：ブラス！・家族を想うとき
13	海外での規緩和やICT化の進行と労働
14	映画で考える労働経済⑦ー多様な労働：ワーカーズ
15	多様な労働と労働経済

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	講義形式の質疑応答だけではなく、グループディスカッションなどで、議論の時間をとって、他者の意見も聞きながら労働問題の理解を深めていきます。	
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向	○		
D:知識の活用・創造	○		

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	映画に関する時代背景や課題について事前に情報を提供します。
	事後学修	映画・講義・議論をふまえた振り返りをするために課題レポートを作成してもらいます。

教科書	特に指定しません。講義内容についてレジメを配布します。
参考書	授業の中で適宜参考文献をあげます。 石井まこと・江原慶編（2024）『多様化する現代の労働』法律文化社も一部活用いたします。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
課題レポート	50%	○	○	○							
期末レポート	50%	○	○	○							

注意事項	労働経済論Ⅰを履修していなくても履修可能ですが、映画教材を鑑賞しながら、講義・議論していきますので、毎回出席が必要です。
備考	
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K143E408	労使関係論(Labor-Management Relations Theory)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3,4	経済	後期	火3	氏名　石井　まこと E-mail　mak@oita-u.ac.jp　内線　7698

授業の概要

労働条件は、たとえば春闘のように労働組合と企業の交渉＝集団的労使関係で決まっていきますが、近年、こうした集団的な決定が衰退化し、労働市場における個別での決定に傾いています。この授業ではこうした個別化が労働者と社会に与える影響を考えていきます。そのために、まず、労使関係によって労働条件が変化することを理解し、労使関係の発展史を検討し、あわせて国際比較により日本の労使関係の特徴を紹介していきます。その上で、ワークショップ形式により、労使関係が我々の人生のなかで、いかなる可能性を持ちうるのか考えていきます。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照) 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	日本の労使関係の諸特徴を説明できる。	○									
目標2	労使関係の発展史を説明できる。	○									
目標3	労使関係を自分事の問題とし、解決に向けた行動の重要性を理解できる。		○	○							
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	労使関係はどういう学問か
2	日本の労使関係の特徴と形成（１）－近代
3	日本の労使関係の特徴と形成（２）－現代
4	賃金問題と労使関係
5	集団的労使関係の変化と労働市場
6	人事管理の変化と労使関係
7	企業別組合と労使関係
8	組織化の課題
9	日本の経営者・経営者団体と労働組合
10	政府と労使関係
11	国際化が変える労使関係とは
12	デモ・ストライキで変える労働・生活条件ーワークショップ（１）
13	就職活動と労使関係ーワークショップ（２）
14	地方で賃上げをする意義ーワークショップ（３）
15	総括

アクティブラーニング

A:知識の定着・確認	○
B:意見の表現・交換	○
C:応用志向	○
D:知識の活用・創造	○

この講義では毎回Moodle上および対面で、可能な限り質問に答えていきます。
数回３－４人のグループ討論（ワークショップ）によるレポート作成を行います（事前にアナウンスします）。

その他の工夫

授業内容をよりイメージできるように、映像コンテンツも活用した授業も行います。

時間外学修の内容と時間の目安

準備学修	レジュメ・参考文献の予習（22.5時間：1回1.5時間）。
事後学修	授業振り返り（22.5時間：1回1.5時間）。

教科書

毎回レジュメを配布します。

参考書

富田義典・花田昌宣・チッソ労働運動史研究会（2021）『水俣に生きた労働者』明石書店。
この他適宜、講義中に紹介します。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
課題レポート	30%	○	○	○							
期末テスト	70%	○	○	○							

注意事項

授業時間中に適宜、質問時間をとります。積極的に聞いてください。

備考

リンク

URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	大原記念労働科学研究所での研究員（1995.4～1998.3）

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	西洋経済史(History of Occidental Economy)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経済	前期	木2	氏名　市原　宏一 E-mail　ich@oita-u.ac.jp　内線　7719

授業の概要	先進的な工業化社会を生んだヨーロッパ地域を対象として、中世前期までのヨーロッパ経済社会の変容と展開をたどります。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	中世盛期までのヨーロッパ経済史における基本構造を理解する。										
目標2											
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	経済史の方法
2	本源的社会
3	古典古代地中海世界1：植民活動
4	古典古代地中海世界2：アテネ「民主制」
5	古典古代地中海世界3：ローマ「共和制」
6	民族移動期のゲルマン社会
7	資料からみる中世前期ヨーロッパの農村
8	中世前期ヨーロッパの農村：古典荘園
9	資料からみる中世前期ヨーロッパの流通・交易
10	中世前期ヨーロッパの流通・交易：領主経済
11	資料からみる中世盛期ヨーロッパの農村
12	中世盛期ヨーロッパの農村：純粋荘園
13	資料からみる中世盛期ヨーロッパの流通・商業
14	中世盛期ヨーロッパの流通・商業：農村内階層分化
15	まとめ

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	・小テストないし小レポートを講義中に行い、自己採点して理解の定着を図ります。 ・小テストの回答を、指名発問を受けて行い、教室全体の協働学習で考察を深めます。	
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	配布資料の次回講義部分をあらかじめ読んでおき，質問・意見を用意しておくこと（15h）
事後学修	授業中に提示した参考資料の読解（15h）、時間中におこなった小テストの誤答箇所について，正解を確認して，ノートに整理しておくこと（15h）

教科書	特にないが、授業中にプリントなどを配付します。
参考書	

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
授業内小テスト	40%										
学期末試験	60%										

注意事項	
備考	講義が一方通行にならないように、小テスト(A5判)を行い、授業内でその内容の発表をしてもらうとともに、答え合わせ・解説を行います。
リンク	
URL	

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K142E413	日本経済史Ⅰ(Economic History of Japan Ⅰ)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経	前期集中	他	氏名　坂江　渉（非常勤講師） E-mail　fzt03024@nifty.com　内線

授業の概要	一般に歴史において経済が自立して動き出すのは近現代以降である。それ以前の社会では、経済の歴史はつねに政治、外交、文化・宗教と密接な関連をもって展開した。とくに日本では在来の神祭り信仰と仏教が、現代と較べものにならないほど、人びとの生活に大きな影響を与えていた。それは時に民衆生活の物質的、精神的な拠り所となり、あるいは支配の道具として利用された。 本講では、「人びとの生業・暮らしと信仰」「中央と地方の交通」「対外関係と経済・物流」「国家権力と神仏政策」「という視点に留意して、古代から近世の歴史を概観する。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	前近代社会の経済の歴史は、つねに政治、外交、文化・宗教と密接な関連性をもっていたことを理解できること。											
目標2	人びとの経済生活と宗教文化の関係を基軸にした前近代の日本の歴史の展開を、自分自身の言葉で説明できるようになること。											
目標3	外国人との国際交流の場において、文化の相互理解をめぐり円滑なコミュニケーションができるようになること。											
目標4	歴史を学んで単に知識を増やすだけでなく、つねに現在社会のあり方を見つめ直す能力を得られるようになること。											
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												

授業の内容

1	序論ガイダンス「日本経済史Ⅰで何を学ぶのか」
2	前近代の生業と暮らし①(多産多死型社会の現実)
3	前近代の生業と暮らし②(多産多死型社会の現実)
4	婚姻・出産と神祭りの共同体
5	古代国家と記紀神話
6	大陸からの文物受容と初期仏教
7	律令制下の疫病をめぐる社会習俗
8	仏教の普及と社会的弱者の救済
9	神仏政策の転換①　-上からの神仏習合-
10	神仏政策の転換②　-御霊会と天神信仰-
11	中世荘園制と寺社勢力
12	中世寺社勢力と朝廷・武家・民衆との関係
13	中世の終焉と経済・流通
14	江戸幕府の仏教統制と「家仏教」の成立　-
15	まとめ

アクティブラーニング				その他の工夫
	A:知識の定着・確認		講義の節目となる授業後に、小レポート等を課し、感想・疑問点などを書いてもらう。その内容を次回の講義でフィードバックして双方向性を高める。また誤字、脱字等を指摘し、受講生の文章表現能力の向上をはかる。	
	B:意見の表現・交換			
	C:応用志向			
	D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	あらかじめ配布する資料を読んで予習し、質問や意見を用意しておくこと(約45分以上)。
	事後学修	講義で習った内容をネットなどで確認して内容を深めるとともに、つねに現代日本の社会のあり方に眼を向けるよう努力する(約45分以上)

教科書	なし
参考書	兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室編(坂江渉監修)『『播磨国風土記』の古代史』(神戸新聞総合出版センター、2021年。定価1800円)など。このほか適宜授業中に紹介する。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
講義の節目となる授業後に課す小レポートの評点	50%										
集中講義の最終日に課すレポートの評点	50%										

注意事項	つねに「歴史とは過去と現代との会話」という言葉を念頭において受講してください。
備考	
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K142E414	日本経済史Ⅱ(Economic History of Japan II)	経済学科 経済学科	オンライン（同時双方向型、オンデマンド型 ）→対面の可能性あり

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経	前期集中	他	氏名　堀川　祐里 E-mail　　内線

授業の概要

日本の産業革命期から現代に至る経済の歴史を、特に労働に焦点を当て、ジェンダーの視点から考察する。
本授業の目的は、受講生の歴史を学ぶことについての意義の理解を、年号や重要語句を覚えるといった受験勉強のようなものから、現代社会の問題を解決する方法であるという理解へと発展させることである。高校生までに得た日本史の知識をジェンダーの視点から相対化出来ることを目指してほしい。
本授業の履修にあたっては、高校生までの日本史の知識があることが望ましいと言える。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	日本経済史の基礎的知識を身につける。										
目標2	講義で取り扱うそれぞれの時期における労働環境の特徴について説明できるようになる。										
目標3	日本経済についてジェンダー視点から自分の考えを述べることができるようになる。										
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	オリエンテーション：授業計画、成績評価、注意事項等に関する説明。
2	ジェンダーの視点から見た経済史
3	官営富岡製糸場と工女
4	産業革命と労働運動の高揚
5	工場法の成立と繊維産業の変遷
6	女性の高学歴化と「職業婦人」
7	戦時中の日本経済と社会政策の在り方①
8	戦時中の日本経済と社会政策の在り方②
9	戦前期の日本経済のまとめ
10	労働組合の歴史
11	戦後の労働状況と労働運動
12	高度経済成長期と「専業主婦」①
13	高度経済成長期と「専業主婦」②
14	国連女子差別撤廃条約の批准と男女雇用機会均等法の制定
15	まとめ：現代の労働環境を歴史的視点から考える

アクティブラーニング		その他の工夫
A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	本授業は遠隔授業である。双方向性を保つよう、受講生にはチャット等オンラインツールを用いた課題や質問に回答してもらう。	授業の一部に、動画配信等を用いたオンデマンド型授業を実施することもある。

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	本授業は、受講生が将来社会人として自立する力を身につけるために、自己学習の習慣をつけることを推奨する。新聞やニュース等で報道される労働やジェンダーに関する話題にアンテナを張り、情報収集を心がけること。各授業につき2時間程度。
事後学修	本授業を履修するにあたっては、授業後の復習を重要視する。授業内に行う小テストや課題をクリアできるよう、毎回の授業で扱った範囲についてはその都度復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決しておくこと。各授業につき2時間程度。

教科書

教科書は用いず、毎回の授業で配布するレジュメ、資料、参考文献等に基づいて講義を進める。受講生には「メモ」をとることを習慣づけ、自分だけのノートを作成していくことを心がけてほしい。大学のポータル機能から資料を配布するため、授業の前にはシステムを確認し、適宜資料の印刷等をおこなっておくこと。

参考書

自己学習のための参考書としては、以下の文献を挙げる。ここに挙げた文献のほか、参考書は授業内に適宜紹介する。
金子貞吉（2005）『戦後日本経済の総点検』学文社。
久留島典子・長野ひろ子・長志珠絵編（2015）『ジェンダーから見た日本史』大月書店。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
授業内におこなう小テスト	45%										
オンラインツールを用いた課題や質問への回答	55%										

注意事項

授業に関しての詳細や注意事項は初回の授業で説明するため、この講義の受講の意思がある場合、また受講するか否かを検討している場合には、必ず第１回目の授業に出席すること。また、個人による授業の録音・録画を禁止する。

備考

通信状況のエラー等で小テストや授業内課題に答えられない、というトラブルについては対応しない（救済措置はない）ため、毎回スマホ、タブレット、パソコン等の端末は電池が切れないように充電し、オンライン環境を整えて受講すること。同様に、欠席に対する救済措置もない。

リンク

URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K143E410	環境の経済学(Environmental Economics)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3,4	経	前期集中	他	氏名　外川　健一（非常勤講師） E-mail　　内線

授業の概要

いわゆる環境問題をテーマに、自ら論理的に思索する姿勢を養い、日本の環境政策（とくに公害問題への対応、廃棄物政と資源政策策、脱炭素とデジタル、SDGs）について自分の意見を述べることが出来ることを目的に講義を行います。また受講者数にもよりますが、授業中にレポートを書くトレーニングや、グループディスカッションの時間も取りたいと思いますので、積極的に議論に参加する学生の受講を歓迎します。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	四大公害病の要因と課題について理解する。										
目標2	産業廃棄物問題の原因と対策について理解する。										
目標3	新しいＩＯＴ等のテクノロジーと環境問題も関係について理解する。										
目標4	ＳＤＧｓについて理解し、課題を意識しながら行動できるようになる。										
目標5	グローバルな環境問題にはどのような課題があるか理解する。										
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	ガイダンス
2	四大公害病、とくに水俣病問題
3	四大公害病、とくにイタイイタイ病問題
4	テキスト　第1章　環境問題の経済学的分析
5	テキスト　第1章（続き）
6	視聴覚教材鑑賞　化学物質問題
7	テキスト　第2章　日本の循環型社会推進政策
8	テキスト　第2章　（続き）
9	視聴覚教材鑑賞　豊島事件を中心に
10	テキスト　第3章　日本の個別リサイクル法
11	テキスト　第5章　日本の自動車リサイクル法の背景
12	視聴覚教材鑑賞　　E-Waste問題、電気自動車は環境にやさしいか？
13	テキスト　第6章・第7章　自動車リサイクル法における拡大生産者責任について
14	テキスト　第8章・第9章　シュレッダーダスト問題と自動車メーカーの対応
15	SDGsに至る歴史的背景の、脱炭素に係る諸問題

アクティブラーニング

A:知識の定着・確認		集中講義ですので、講義期間中は毎日、担当講師のアドバイスの下、自分の頭で指定テキスト等を読み、講義を聴いて考えて書くトレーニングを行います。 講義では視聴覚教材も積極的に取り入れて、わかりやすい説明を心がけ
B:意見の表現・交換		
C:応用志向		
D:知識の活用・創造		

その他の工夫

時間外学修の内容と時間の目安

準備学修	講義内容に沿った宿題を出します。毎日の課題をペースメーカーに１週間の講義を楽しんでください。
事後学修	

教科書

テキスト 外川健一『資源政策と環境政策』原書房、2017年。テストでも使用しますので、必ず購入してください。

参考書

ジャレド・ダイアモンド『銃・病原菌・鉄』(上、下)草思社、2000年（1997）、原田正純『水俣病』岩波新書、1972年、細田衛士『環境と経済の文明史』、NTT出版、2010年、堤未果『デジタル・ファシズム』2021年、杉山大志編著（2021）『SDGsの不都合な真実』宝島社等をとりあえず推薦しておきます。
このほか随時講義中にご紹介します。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
試験	100%										

講義中および講義終了後に試験を実施します。なお、受講者と相談の上、随時の小試験・レポートの内容やグループ討論での参加・報告の状況をもとに、総合的に評価することもあります。

注意事項

前回の授業で行われた議論の内容を整理し、自分にとってどのような知識が新たに得られたのかを確認してください。
対面講義ではB5版のルーズリーフを講義中のレポートとして利用しますので、20枚ほど購入しておいてください。

備考

講義では視聴覚教材も積極的に取り入れて、可能な限りグループ討論の時間等も取りたいと思います。
積極的に議論に参加する学生の受講を歓迎します。なお、感染症の状況などに応じてオンライン講義に切り替えます。

リンク

URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K142E415	経済政策論Ⅰ(Theory of Economic Policy I)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経	前期	月2	氏名　高見　博之 E-mail　htakami@oita-u.ac.jp　内線　7674

授業の概要

現実の様々な経済問題を評価するためには、個々の事例について何らかの理論的枠組みを基礎として考察することがより有効です。その枠組みとしての、経済理論・経済政策についての基礎的な学問体系の修得がこの講義の目的です。ミクロ経済学の考え方を用いて、市場経済の限界と政府の果たすべき役割について理解し，経済政策の基本的な考え方を展開します。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照) 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	市場が成功する状況を説明できる。	○									
目標2	市場が失敗する事例を説明できる。	○									
目標3	外部性が存在する場合の問題点を説明できる。	○									
目標4	公共財が存在する場合の問題点を説明できる。	○									
目標5	不完全競争の場合の問題点を説明できる。	○									
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	政府の役割とは
2	経済政策の課題
3	市場均衡(1)：消費者行動
4	市場均衡(2)：企業行動
5	市場均衡(3)：市場均衡
6	市場均衡と厚生経済学の基本定理
7	政府の市場介入のコスト（余剰分析）
8	市場の失敗
9	外部性(1)：私的解決策
10	外部性(2)：公的解決策
11	公共財(1)：公共財の最適供給
12	公共財(2)：リンダール・メカニズム
13	独占と市場の失敗
14	自然独占と価格設定
15	まとめ

アクティブラーニング

A:知識の定着・確認	○
B:意見の表現・交換	
C:応用志向	
D:知識の活用・創造	

毎回の「講義内容についての質問」「その日の講義のキーワード」の提出と，随時，小レポートを作成してもらい，講義内容について主体的に理解を深めてもらう機会を設定します。

その他の工夫

各種外部試験（経済学検定試験や公務員試験など）を元にした演習問題を解いてもらうことがあります。

時間外学修の内容と時間の目安

準備学修	現実の政府の活動に関心をもって日本経済新聞を読むこと（8h）。
事後学修	講義時の小レポートと講義内容の振り返り（14h）

教科書

教科書は設定しません。プリントを配布します。

参考書

講義中に適宜提示しますが，以下の2冊を挙げておきます。
スティグリッツ(2022)『スティグリッツ　公共経済学(第3版)　上 』東洋経済新報社，ISBN 9784492315446.
八田達夫(2013)『ミクロ経済学 Expressway』東洋経済新報社，ISBN 9784492813027.

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
期末試験	70%	○	○	○	○	○					
講義時等の小レポート	30%	○	○	○	○	○					

注意事項

板書により講義を進めます。

備考

本講義の分析手法は、専門基礎科目の初級ミクロ経済学程度の水準です。

リンク

URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K142E416	経済政策論Ⅱ(Theory of Economic Policy II)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経	後期	月2	氏名　高見　博之 E-mail　htakami@oita-u.ac.jp　内線　7674

授業の概要

現実の様々な経済問題を評価するためには、個々の事例について何らかの理論的枠組みを基礎として考察することがより有効です。その枠組みとしての、経済理論・経済政策についての基礎的な学問体系の修得がこの講義の目的です。主としてマクロ経済学の考え方を用いて，経済政策の基本的な考え方を展開します。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	マクロ経済学の基本的な概念を説明できる。		○								
目標2	閉鎖経済の下でのマクロ経済政策の効果を説明できる。		○								
目標3	開放経済の下でのマクロ経済政策の効果を説明できる。		○								
目標4	短期・長期の視点で財政政策の効果を説明できる。		○								
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	ガイダンス：政府の役割
2	マクロ経済政策の課題
3	経済の安定(1)：45度線モデル
4	経済の安定(2)：乗数
5	経済の安定(3)：IS曲線
6	経済の安定(4)：LM曲線
7	経済の安定(5)：IS-LM分析
8	公債(1)：政府の予算制約
9	公債(2)：公債発行とIS-LMモデル
10	公債(3)：公債の中立命題
11	公債(4)：財政赤字の問題点
12	開放経済と財政金融政策
13	経済成長(1)：新古典派成長モデル
14	経済成長(2)：財政政策の効果
15	まとめ

アクティブラーニング

A:知識の定着・確認	○
B:意見の表現・交換	
C:応用志向	
D:知識の活用・創造	

毎回の「講義内容についての質問」「その日の講義のキーワード」の提出と，随時，小レポートを作成してもらい，講義内容について主体的に理解を深めてもらう機会を設定します。

その他の工夫

各種外部試験（経済学検定試験や公務員試験など）を元にした演習問題を解いてもらうことがあります。

時間外学修の内容と時間の目安

準備学修	現実の政府の活動に関心をもって日本経済新聞を読むこと（8h）。
事後学修	講義時の小レポートと講義内容の振り返り（14h）

教科書

教科書は設定しません。

参考書

講義中に適宜提示しますが，以下の2点を挙げておきます。
N.G.マンキュー(2024)『マンキューマクロ経済学I　第5版』東洋経済新報社，ISBN 9784641222243.
福田 慎一・照山 博司 (2023)『マクロ経済学・入門 第6版』有斐閣アルマ，ISBN 9784492315583.

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
講義時等の小レポート	30%	○	○	○	○						
期末試験	70%	○	○	○	○						

注意事項

板書により講義を進めます。必要に応じプリントを配付します。

備考

本講義の難易度は、初級マクロ経済学の分析道具を用いた程度の水準です。

リンク

URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K141E404	社会政策(Social Policy)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経済	前期	金1	氏名　石井　まこと E-mail　mak@oita-u.ac.jp　内線　7698

授業の概要	社会政策とは「生活と労働が維持されるように、市民や政府が作り出す施策」です。労働問題、労使関係、社会保障、社会福祉、女性学、ジェンダー研究、生活問題など幅広い領域を対象にしています。主として仕事と暮らしに関わる問題について、社会問題をいかにとらえるべきか、いかなるアプローチをとるべきかを議論している学問体系です。こうした社会問題のとらえ方を本講義では学んでもらいます。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照) 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	社会政策が取り扱う問題に対して、自分事として考えられる。	○	○	○							
目標2	新聞・各種メディアの報道を鵜呑みにせず、客観的な判断ができる。	○	○	○							
目標3	社会問題を解決する行動の重要性を理解できる。	○	○	○							
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	オリエンテーション－人生と社会政策
2	私たちの生活と社会政策
3	子ども期の社会政策
4	進路選択期の社会政策
5	成人期・壮年期の社会政策
6	高齢期の生活を支える社会政策
7	仕事をめぐる社会政策
8	結婚と子育て
9	住まい
10	保険医療・介護
11	生活困窮と社会政策
12	社会政策に関する映画鑑賞とワークショップ（１）
13	生活問題と社会政策－ワークショップ（２）
14	労働問題と社会政策－ワークショップ（３）
15	福祉問題と社会政策－ワークショップ（４）

アクティブラーニング			
A:知識の定着・確認	○	この講義では毎回Moodle上および対面で、可能な限り質問に答えていきます。 数回３－４人のグループ討論（ワークショップ）によるレポート作成を行います（事前にアナウンスします）。	その他の工夫：授業内容をよりイメージできるように、映像コンテンツも活用した授業も行います。
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向	○		
D:知識の活用・創造	○		

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	教科書予習（22.5時間：1回1.5時間）。
	事後学修	授業振り返り（22.5時間：1回1.5時間）。

教科書	石井まこと・所道彦・垣田裕介編（2024）『社会政策入門－これからの生活・労働・福祉－』法律文化社。
参考書	石井まこと・江原慶編（2024）『多様化する現代の労働ー新しい労働論の構築に向けてー』法律文化社。 平澤克彦・中村艶子編（2021）『ワークライフ・インテグレーション』ミネルヴァ書房。 石井まこと・宮本みち子・阿部誠編（2017）『地方で生きる若者たち』旬報社。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
授業内レポート	30%	○	○	○							
期末テスト	70%	○	○	○							

注意事項	教科書が必要です。購入の上、受講をお願いします。
備考	
リンク	URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	大原記念労働科学研究所での研究員（1995.4～1998.3）

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K143E413	セミナー「働くということと労働組合」(Work and Trade Union Seminar)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3,4	経済学部	後学期	水4	氏名　石井まこと・小山敬晴 E-mail　mak@oita-u.ac.jp　内線　7698

授業の概要	この授業は、寄附講義「働くということと労働組合」 の応用科目として位置づけられ、労働現場で起きている実際の諸問題を事例をもとに、少人数のグループ・ディスカッション形式で解決策を考えながら、自身のライフプランを考える授業です。労働・生活問題を深く考えてみたい学生のみなさんの受講を期待しています。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	労働問題の具体的内容を知ることができる。	○									
目標2	労働条件の維持・向上の仕組みを理解できる		○								
目標3	議論を通じて、適切な解決策を導き出すことができる。			○							
目標4	ライフデザインを創造することができる。			○							
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	イントロダクション：ライフデザインを考えよう－生活編
2	イントロダクション：ライフデザインを考えよう－労働編
3	身近な労働問題に関するワークショップ
4	ライフコース選択はどうする
5	ライフコース別課題研究：人生前半期
6	ライフコース別課題研究：人生後半期
7	ライフコースを豊かにするための課題：事例紹介と討論
8	ライフコース選択を阻害する要因分析
9	外部講師による労働・生活問題講演
10	講演をふまえたワークショップ
11	グループ発表に向けた取り組み①：ライフコース上の課題抽出
12	グループ発表に向けた取り組み②：課題の絞り込みと問題の所在分析
13	グループ発表に向けた取り組み③：プレゼン構成の検討
14	グループ発表
15	グループ発表の振り返り

アクティブラーニング				
A:知識の定着・確認	○	グループ・ディスカッションを積極的に活用し、議論を活発化させます。	その他の工夫	外部講師をお招きして課題を提示してもらい、解決策を一緒に考えます。自分が当事者になり、自分事として考えてもらえるように、授業を進めていきます。
B:意見の表現・交換	○			
C:応用志向	○			
D:知識の活用・創造	○			

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	これまで受講してきた労働問題関係の授業の復習をすること。「働くということと労働組合」をはじめ、「社会政策」、「労使関係論」、「労働関係法Ｉ」、「労働関係法II」などレジュメおよびノートを使って、学習内容を振り返ってください。30時間
	事後学修	授業で議論した論点の振り返り。15時間

教科書	未定（授業内で指示します）。
参考書	授業内で適宜紹介します。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
授業内での課題への取り組み	50%	○	○	○	○						
プレゼンテーション	50%	○	○	○	○						

注意事項	セミナー形式ですので、出席・参加意欲を重視しますので、欠席しがちな人は遠慮してください。受講生数は10名程度です。９月の後期ガイダンスにて受講者調整を行いますので、必ずガイダンスに出席してください。
備考	現実進行形の労働問題を含めて、皆さんが就職後にも役立つ知識になるような授業にしていきたいと考えています。
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K142E419	財政学Ⅰ(Public Finance Ⅰ)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経済学部	前期	水2	氏名　林　勇貴 E-mail　yhayashi@oita-u.ac.jp　内線　7705

授業の概要

公園などの公共財の供給、社会保障、景気対策など、政府や自治体は多くの活動を通して、私たちの生活を支え、望ましい社会を実現しています。しかし、近年、財政状況は厳しくなるとともに、高齢化社会にともなう年金問題や地域間格差など解決すべき問題は増え続け、財政運営はますます困難の度を強めています。本講義では、様々な財政問題の①現状を把握し、②問題発生の原因を探り、③問題解決の糸口を考えていきます。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	政府の役割を理解する。										
目標2	財政問題の現状や発生のメカニズムを理解する。										
目標3	関連した新聞記事などの理解力を強化する。										
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	イントロダクション－財政学とは－
2	日本の財政状況を考える
3	財政赤字の問題点（１）
4	財政赤字の問題点（２）
5	経済活動における財政の役割
6	財政の役割－資源配分機能とその効果－
7	政府支出の理論－効率性－
8	政府支出の理論－公共財の最適供給－（１）
9	政府支出の理論－公共財の最適供給－（２）
10	政府支出の理論－公共財の最適供給－（３）
11	政府の失敗を考える
12	財政と経済安定－経済安定化機能とその効果－
13	経済安定化のメカニズム（１）
14	経済安定化のメカニズム（２）
15	まとめ

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	・レポート課題によって授業内容を確認し、自らの考えをまとめる。 ・授業終了後に疑問点を質問する。	
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	・現在発生している財政の諸問題に対して関心を持ってもらいたい。 そのためにも、財政関連の新聞記事に目を通す（15h）。
事後学修	・授業終了後のレポート課題に取り組む（10h）。 ・理解できなかった点を明確にするため、復習する（15h）。

教科書

教科書は指定しない。
授業中に配布するプリントを使用する。

参考書

林宜嗣・林亮輔・林勇貴（2019）『基礎コース財政学　第4版』、新世社

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
学期末試験	80%	○	○	○							
レポート課題	20%			○							

注意事項

特になし

備考

特になし

リンク

URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K142E422	国際金融論Ⅰ(International Finance I)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経済学部	前期	火2	氏名　小笠原　悟 E-mail　ogasawara-satoru@oita-u.ac.jp　内線　7713

授業の概要	経済のグローバル化が進むにするにつれ、国家間の資金の流れは巨額なものになっています。また、国境を越えた財・サービスや金融取引ではそれぞれの国が使用する通貨が異なるため、為替レート（相場）という交換比率が必要になります。この講義では、国際金融の基本である「国際収支」「為替レートの変動要因」「為替レートの決定理論」について学ぶと共に、為替レートと実体経済の関係について考えます。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	国際金融の基礎理論を理解し、為替レートの変動要因を理論に基づいて説明できるような能力を獲得することを目指します。										
目標2											
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	国際金融論とは－ガイダンス
2	国際化とグローバル化
3	国際収支の見方・使い方
4	国際資本移動の基礎
5	外国為替の基本①（外国為替のしくみ）
6	外国為替の基本②（為替レートの見方）
7	外国為替の基本③（為替レートと貿易収支）
8	外国為替の基本④（通貨制度）
9	為替レートの変動要因①（購買力平価）
10	為替レートの変動要因②（購買力平価パズル）
11	為替レートの変動要因③（金利平価）
12	為替レートの決定理論（マネタリー・アプローチからアセット・アプローチへ）
13	為替レートの決定理論（ポートフォリオ・バランス・モデル）
14	為替レートの決定理論（期待と予想）
15	まとめ

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	授業の理解度を高めてもらうため、振り返りノートの提出と数回小テストを実施します。	
B:意見の表現・交換			
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	事前にテキストをよく読んでおくこと(15h)。
事後学修	知識の定着としての振り返りノート(30h)

教科書	橋本優子・小川英治・熊本方雄『国際金融論をつかむ』2019年 有斐閣
参考書	清水順子・大野早苗・松原聖『徹底解説　国際金融　理論から実践まで』2016年 日本評論社 その他適宜Moodleに資料を掲載したり、講義時に紹介します

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
振り返りノート＆小テスト	50%	○									
期末試験	50%	○									

注意事項	国際金融の基礎を網羅的に学ぶため、ⅠとⅡをセットで受講することが望ましいです。
備考	遅刻や授業中の私語に対しては、厳しく対応します。 学んだことを思い出してもらうために、小テストは抜き打ちで実施します。
リンク	URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	エコノミスト、為替ストラテジスト
実務経験をいかした教育内容	外資系金融機関でエコノミスト、為替ストラテジストとしての経験を有する教員が、グローバルな視点から実体経済と金融の関係について解説する。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K143E415	国際金融論Ⅱ(International Finance II)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経済学部	後期	火2	氏名　小笠原　悟 E-mail　ogasawara-satoru@oita-u.ac.jp　内線　7713

授業の概要

金融、経済の国際化やグローバル化が進むにつれ、一国の経済行動が世界全体に影響を及ぼす機会が増えています。米国のサブプライム・ローン問題が、なぜ世界的な金融危機に発展したのか。米国が利上げするとなぜ新興国市場から資金が流出するのか。また、急激な為替レートの変動が一国の経済に大きな影響を及ぼすことがあります。この講義では、「為替変動に対する為替介入とその効果」、「通貨危機」「国際通貨制度」「通貨統合問題」などを体系的に学び、国際金融についての理解を深めることがねらいです。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	国際金融Ⅰで学んだ基礎理論をベースに、メディアなどで取り上げられている現実の国際金融問題を理解できるような能力を獲得										
目標2											
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	ガイダンス
2	為替変動と為替介入
3	マンデル・フレミング効果
4	マクロ経済政策の効果
5	通貨危機発生のメカニズム
6	通貨危機はなぜ伝播するのか
7	通貨危機に対する通貨制度
8	国際通貨制度
9	基軸通貨としてのドル
10	通貨の国際化とは
11	ユーロの誕生
12	通貨統合の便宜と費用
13	ユーロ圏危機
14	国際金融の新しい課題
15	まとめ

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	授業の理解度を高めてもらうため、ビデオを鑑賞したり、小テストを実施します。	
B:意見の表現・交換			
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	事前にテキストをよく読んでおくこと(15h)
事後学修	授業の理解度を高めるための振り返りノート(30h)

教科書

橋本優子・小川英治・熊本方雄『国際金融論をつかむ』2019年 有斐閣

参考書

田中素香『ユーロ危機とギリシャ反乱』2016年 岩波新書

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
振り返りノートおよび小テスト	50%										
期末試験	50%										

注意事項

講義は主に国際金融論Iで使用した『国際金融論をつかむ』の後半部分を使用します。国際金融の基礎から応用を網羅的に学ぶため国際金融論Ⅰを受講していることが望ましいです。なお、近年の国際金融情勢のめまぐるしい変化に対応するためテキスト以外の資料も多用します。

備考

遅刻や、他の学生に迷惑がかかるような授業中の私語に対して、厳しく対応します。
小テストは抜き打ちで実施します。

リンク

URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	エコノミスト、為替ストラテジスト
実務経験をいかした教育内容	外資系金融機関でエコノミスト、為替ストラテジストとしての経験を有する教員が、グローバルな視点から実体経済と金融の関係について解説する。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K142E423	証券論(An Introduction to Securities Market)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3	経	前期	金1	氏名　金　珍奎 E-mail　kim@oita-u.ac.jp　内線　7690

授業の概要	本講義の目的は、証券そのものや証券市場に関する基礎知識を身につけることにある。証券とは何か、株式や債券とは何か、またこれらの証券が発行・流通される証券市場とは何かについて学習する。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	証券市場の基礎から学習をスタートさせ、証券市場の全般的な仕組みを理解できるようにする。	○	○								
目標2	最終的には、日々変化している証券市場の現状を把握できるようにする。	○	○								
目標3	レポートや株式投資ゲームの報告書をつうじて株式市場についての分析能力を高める。			○							
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	ガイダンス（証券とは何かや講義の進め方について）
2	株式の基礎
3	債券の基礎と株式投資ゲームについて
4	理論株価と株価の決定要因
5	株式市場の様々な指標
6	株式の投資尺度
7	上場株式の比較分析
8	中間まとめ（株式投資ゲームについて確認を含む）
9	ベンチャー企業と上場制度
10	株式市場の実際その1
11	株式市場の実際その2
12	債券投資と利回り分析
13	投資信託の仕組み
14	投資信託と証券市場
15	総まとめ

アクティブラーニング			
A:知識の定着・確認	○	株式投資ゲームのの報告書の作成、レポートの提出	その他の工夫：報告書を作成するためには、日々の経済情報の把握をはじめ、様々な資料による調査・分析が必要になります。
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	日々の経済指標を確認しておく(45h)
事後学修	配布資料を用いて復習する(45h)

教科書	教科書は指定しない。 毎回プリントを配付する。
参考書	日本経済新聞社『やさしい株式投資』第２版2017年。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
株式投資ゲームの報告書	10%	○	○	○							
レポート	10%	○	○								
テスト	80%	○	○								

注意事項	証券関連記事を読み、授業に参加すること。
備考	毎回、授業内容に関する質問アンケートと出席をとる。 小テストを行うことがある。
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K143E416	証券市場論(Securities Market)	経済学科 経済学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3,4	経	後期	金１	氏名　金　珍奎 E-mail　kim@oita-u.ac.jp　内線　7690

授業の概要	本講義の目的は、証券市場に関する知識をより深めていくことにある。前期の証券論の講義内容が総論であれば、この講義は各論にあたり、より専門的な内容を取り入れ、証券市場の理解をさらに深める。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	証券市場の全体像を把握するとともに、国民経済における証券市場がどのような役割を果たしているのかがわかるようになる。		○	○								
目標2	株式投資ゲームを実施することにより、日々変化する経済や証券市場の動きをキャッチし、理解できるようになる。				○							
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												

授業の内容

1	ガイダンス（株式投資ゲームについてを含む）
2	ストックオプションと新株予約権
3	株式公開（IP0）について
4	債券市場と格付け
5	株式投資と行動経済学
6	証券市場のプレイヤーその1
7	証券市場のプレイヤーその2（インサイダー取引についてを含む）
8	中間まとめと株式投資ゲームの進捗状況について
9	デリバティブの概念と意義
10	オプション取引についてその1
11	オプション取引についてその2
12	先物取引についてその1
13	先物取引についてその2
14	スワップ取引について
15	総まとめ

アクティブラーニング				その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	株式投資ゲームの報告書、レポートの提出		日々の経済情報の把握をはじめ、様々な資料による調査・分析が必要になります
B:意見の表現・交換	○			
C:応用志向				
D:知識の活用・創造				

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	日々の経済指標の確認(45h)
事後学修	配布資料を用いた復習(45h)

教科書	教科書は指定しない。 毎回プリントを配付する。
参考書	大村敬一・佐野雅司『証券論』2014年、有斐閣。

成績評価の方法及び評価割合 評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
株式投資ゲームの報告書	10%	○	○								
レポート	10%	○									
テスト	80%	○	○								

注意事項	証券論の受講が必要。
備考	毎回アンケートと出席をとる。 小テストを行うことがある。
リンク	
URL	